

外来生物から、桜を守りたい！

3年2組26番 中屋光琴

Keyword:「外来生物」「環境」「桜」「クビアカツヤカミキリ」「保全」

1. はじめに

私がこの研究テーマを選んだ動機は、幼い頃から生き物や自然に興味があり、いま起こっている環境問題を解決したいと思ったからである。特にクビアカツヤカミキリは、春の季節の風物詩である桜の生態系を壊そうとしているという事が、とても深刻な事であると感じた為、このテーマにすることに決めた。

また、このテーマは、年齢に関係なく、今だけでなく、大人になってからも、取り組んでいける課題だと感じたので、このテーマを選んだ。

2. 序論

まず、クビアカツヤカミキリについて説明する。

クビアカツヤカミキリは特定外来生物として認定されており、成虫体長2~4cmで、特徴は体が黒く、光沢があり、前胸部が赤く、突起があるのが特徴である。卵はクリーム色で米粒状であり、大きさは、2~3mmである。また、虫糞であるフ拉斯にも特徴がある。フ拉斯は、基本的にうどん状である。また産卵数が多く、一度に約500個から1000個産卵する。さらに、クビアカツヤカミキリは、樹木に産卵痕を作らず、割れ目に産卵する。そして、臭いにも特徴があり、ジャコウ臭という独特の匂いがする。



上:クビアカツヤカミキリ(Red-necked longhorn beetle)

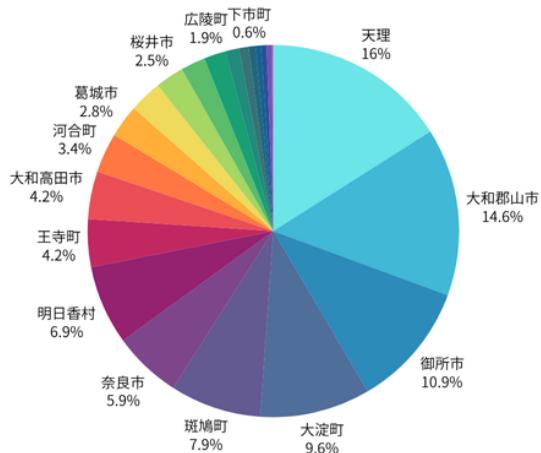
次に、クビアカツヤカミキリの被害の現状についてである。クビアカツヤカミキリは主に生きたバラ科樹木につき、幼虫は幹の内部を侵食し、それによって木の大切な器官が傷つけられてしまう被害を及ぼす。日本では2012年に愛知県、2013年に埼玉県で報告があった以外には、生息や被害は確認されていなかった。

しかし、2015年に入ってから大阪府、群馬県、栃木県、東京都で生息や被害の確認が報告された。2019年には被害が拡大し、三重県、愛知県、奈良県、茨城県、和歌山県で被害が確認された。さらに、2021年に神奈川県、2022年に兵庫県、2024年に京都府、2025年に千葉県で被害が確認される。2025年までに合計15都道府県で被害が確認されている。奈良県では、令和6年度末までに27市町村で成虫・被害木の確認がなされている。

次に、調査方法や、駆除方法についてである。クビアカツヤカミキリの成虫が活動するのは、おもに6月から8月である。そのため、成虫の発見をこの時期に行う必要がある。それ以外の期間には、クビアカツヤカミキリが木の中を掘ったあと、木の外側に出るうどん状の木くずと糞の混ざつたものである、「フラス」を頼りに被害にあっている木を探す。

クビアカツヤカミキリを見つけた際の駆除方法は、特定外来生物であるため、持ち運ぶと違法になってしまうことから、ハサミで切るか、足で踏み潰すなどによって駆除を行なう。また、クビアカツヤカミキリの被害にあっていると分かった木には、薬の投与や、ネット貼りを行う。薬の種類の例としては、アセタミプリドや、メタフルミゾンが使われる。

最後に、活動の課題についてである。活動においての課題は、市民への周知、協力依頼を必要とする事である。一部の人の目だけでは発見できないため、チラシ等、全戸配布か回覧によって啓発を行うことが必要である。他にも、行政間の温度差、樹木医等専門家の関わり方も問題です。また、被害があるのは、管理されている場所だけでなく、無管理地も多くあるため、持ち主の特定も必要である。そして、どう活動を継続していくかも、重要である。具体的な現場の対策は、誰がやるのか的確化する事が必要である。また、被害が拡大している理由として、私は、この課題に対しての感心が低いという事が課題であると仮定した。



奈良県ホームページ参考【奈良県の被害木数】

3. 本論

私は、主に夏休みの期間中に成虫の発見の調査を行った。場所は主に、自宅周辺や、斑鳩町にある三室山の桜を中心に調査した。すると、自宅周辺の樹木には既にネットが貼られていたり、薬が投与されている所が多く見受けられた。一方で、三室山においては対策が行き届いていないように見受けられた。桜の木の何本かにフラスが確認でき、そのほとんどの木には、対策されている様子が見られなかった。フラスのほかに、クビアカツヤカミキリが木の内部から外に出たと思われる楕円形の脱出口も見受けられた。クビアカツヤカミキリの脱出口は、他のカミキリは脱出口の形が円形であるのに対し、楕円形であるので、恐らくクビアカツヤカミキリのものであると、予想される。



上:三室山のフ拉斯 2025/06/18 撮影
下:確認された成虫 2025/08/06 撮影

4. 結論

夏休みに、成虫の調査を行った際、三室山で、合計3匹の成虫が見られた。既にネットが掛けられている木と、薬を投与されている木を除いて、合計12本のフ拉斯を確認出来る木が見受けられた。対策のされていない木が多く見られることから、仮定した通り、クビアカツヤカミキリの被害に対し、無関心なひとが多く、関心を持っている人が少ないというのが現状である。また、三室山周辺だけでなく、大和川沿いの桜の木にも、フ拉斯の見られる木が見受けられた。

5. おわりに

仮定した通り、今のこの現状を深刻な事態だと受け止めず、他人事の様に捉えていることが、被害の拡大に繋がっていると考える。今後の課題としては、前にも述べた通り、行政間の温度差、樹木医等専門家の関わりである。また、クビアカツヤカミキリ自体を知らない人が多く見受けられるため、多くの人に知ってもらう事も重要であると考えた。

私は、引き続きこれからも調査を行い、被害の広がりを抑え、桜を守りたいと考えている。

6. 参考文献・出典

宗實久義，クビアカツヤカミキリの生態と発見方法
むねざね樹木医・環境カウンセラー事務所 2025/04/20,
2025/11/18

和口美明,クビアカツヤカミキリー被害と対策－
奈良県桜見守り隊ボランティア 2025/06/01,
2025/11/18